

項目	説明	
試料・情報の利用目的及び利用方法	研究課題名	日本人における遺伝カウンセリング後に遺伝学的検査を受ける、あるいは受けない要因の検討
	研究対象者	2014年4月から2024年3月までに当センター遺伝診療科で遺伝学的検査を目的に遺伝カウンセリングを実施した対象者
	研究目的	遺伝性腫瘍の診断には、遺伝カウンセリングおよび、遺伝学的検査が必要であるが、受検するか否かは最終的には本人の判断となる。海外の報告では、受検しない医学的な理由として、臨床的に該当しない、家族で最適な対象者でない等、非医学的な理由として、経済的な問題、患者の無関心等が挙げられているが、日本人に対する要因の検討は2012年の少数例の検討に限られている。 日本人における、遺伝カウンセリング後に遺伝学的検査の受検を左右する要因は明らかになっておらず、説明することが本研究の目的である。
	研究方法	遺伝カウンセリング記録、診療記録等により、後方視的に検討する。
	個人情報保護	対象となる患者さんの診療情報には個人情報が含まれますが、氏名や住所などの情報を削り、容易に個人を特定できないように研究用の番号（識別コード）で管理します。個人と識別コードを照合できるようにする対応表を作成しますが、パスワードロックや鍵をかけて厳重に保管し、院外へ提供することはありません。
	研究期間	西暦 2024 年 9 月 9 日～西暦 2025 年 12 月 31 日
	利用又は提供を開始する時期	<input checked="" type="checkbox"/> 総長が研究実施を許可した日 <input type="checkbox"/> 西暦 年 月 日頃（研究の進捗によって前後いたします）
利用する試料・情報の項目（チェック[X]が入った項目を利用します）	<input type="checkbox"/> 試料:	<input type="checkbox"/> 血漿、 <input type="checkbox"/> 血清、 <input type="checkbox"/> 全血、 <input type="checkbox"/> 末梢血から抽出した DNA、 <input type="checkbox"/> 病理検体(具体的に記載: _____)、 <input type="checkbox"/> 尿、 <input type="checkbox"/> 糞便、 <input type="checkbox"/> 唾液、 <input type="checkbox"/> 胸水、 <input type="checkbox"/> 腹水、 <input type="checkbox"/> 脳脊髄液、 <input type="checkbox"/> 毛髪、 <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載: _____)
	<input checked="" type="checkbox"/> 情報:	<input checked="" type="checkbox"/> 診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、 <input checked="" type="checkbox"/> 年齢、 <input type="checkbox"/> 生年月日、 <input checked="" type="checkbox"/> 性別、 <input checked="" type="checkbox"/> 既往歴、 <input checked="" type="checkbox"/> 併存疾患、 <input checked="" type="checkbox"/> 外来日・入院日・退院日、 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査値、 <input type="checkbox"/> 放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床所見・経過（予後追跡データを含む）、 <input checked="" type="checkbox"/> ゲノムデータ、 <input checked="" type="checkbox"/> 看護記録、 <input checked="" type="checkbox"/> その他(具体的に記載: カウンセリング記録)
試料・情報を利用する者の範囲	当センター研究責任者	所属・氏名 婦人科・近内勝幸
	共同研究機関および責任者	なし
	その他の機関	なし
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口	施設名・所属・氏名・連絡先 神奈川県立がんセンター・婦人科・近内勝幸・045-520-2222 利用停止のお申し出は2025年3月30日までにお願いいたします ただし、お申し出いただいた時にすでにデータが固定され、研究成果が論文などで公表されていた場合には、患者さんのデータを廃棄できない場合があります	